

## ASEAN グローバルプログラム 活動報告

小田 吉寿  
Yoshihisa ODA  
数理情報学科 2年

### 1. はじめに

今回のプログラムを通し、私は外国の異文化やその国が持つ様々な情景と、自分の能力を見つめ、今後の課題を発見することができた。特に、交流した現地学生やビジネスパーソンの方々との関わりを通じて、積極性が圧倒的に未熟であると痛感した。また、ベトナムとシンガポールという2カ国を巡る中で感じた外国と日本における文化、民族性の違いから、カルチャーショックを感じた。この体験は、視野をもっと広げるべきだという考えを私にもたらしてくれた。この報告書では現地で体験した事柄と、その感想を中心に述べ、さらに私自身の将来展望について記すことで、次の行動に繋げることができればと考えている。

### 2. 参加目的

私はかねてより海外へ渡航してみたいという考えを持っており、海外研修の目標を二つ想定していた。一つ目は自身の英語能力がどの程度通用するものなのか、また英語でのコミュニケーションにはどの程度のレベルが必要とされるのかを実際に経験して見極めることであり、二つ目は、日本ではない他の国、いつもとは違う環境を味わうことで今まで考えたこともなかったような体験をし、それをもって自身の視野を拡大することであった。このプログラムではただ海外に渡航するのではなく、様々な体験ができる研修が盛り込まれており、これら2つの目的を達成できるのではないかと考えたため、参加することを決めた。

### 3. ハノイ工業大学生との PBL

この項では主に今回のプログラムを通して、私が一番の衝撃を受けた、ハノイ工業大学学生とのPBLについて報告する。私たちが初めてハノイ工業大学を訪れたのは8月29日、ベトナムに来て3日目のことであった。日系企業と現地企業への訪問、イオンモール視察を前日までに終えて、バイク社会(図1)や未だに個人商店が立ち並ぶなど日本とはまた違った特色を持ったベトナムという国に対しても少し慣れてきたころだが、ベトナム人の方と英語で話し合うというのはこれが初めてのことであった。交流初日、ハノイ工業大学に到着し、開会のセレモニーを終えて、早速ベトナム人学生2人との交流及び、今日の活動についての打ち合わせを行った。その際、事前に日本で立てた提案内容やアンケートの草案を持ち出して話し合いを行ったのだが、日本人側はうまく英語を話せず、うまくコミュニケーションを図ることができなかった。これに対してベトナム人学生たちは英語をよく話し、私たち日本人のメンバーの意見をくみ取ろうと努力し、また、その日の活動目標であったアンケート作り及び回答の回収までのほとんどの活動を主導していつてくれた。

交流2日目も初日と同様にベトナム人学生が活動を主導し、アンケートを回収。そして、発表の内容をまとめてポスターを作る段階において私たち日本



図1 ベトナムの道路、バイクが多く面喰らってしまった

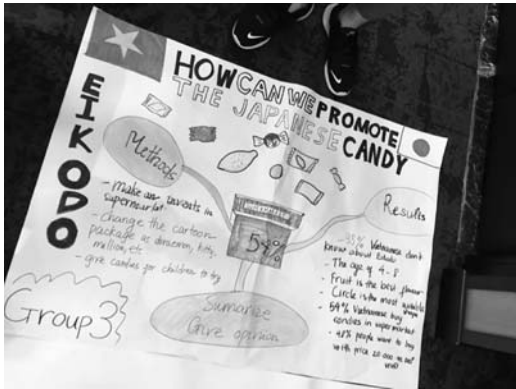


図2 完成したポスター，ほぼベトナム人学生一人の功勞である

人学生は主体的に活動できずその手際の良さにただ圧倒されるばかりで、多くの作業をベトナム人学生たちに任せきりの状態になってしまい、私たちはポスターの色塗り程度のことしかできなかつた（図2）。

私にとって、今回のプログラムの中でこの活動が最も苦い経験だった。日本人は事前に準備する期間があり、こちらは人数が5人もいたにもかかわらずベトナム人学生の主体的な活動の陰で何もできなかったという事実がひたすらに悔しく、自分の能力の至らなさが本当に虚しかった。ただ、これを機に自分を見つめなおし、足りない能力について気付くことができたのは、大変な幸運であったとも感じている。私に足りないものは、英語力もちろんそうだが、何よりも能動的に物事に取り組む積極性であることがわかつた。思い返せば、ベトナム人学生は本当に積極的であった。思い立てばすぐに行動し、意見を言うことに迷いがなかつた。キャンパス内でベトナム人学生に対してアンケートを取るとき、同じ班のベトナム人学生は授業中の教室に入って教員の方と直接交渉して教室内でアンケート調査を行う許可をもらっていた。その結果、私たちはごく短時間で大量の回答を回収できた。私を含む班日本人学生たちは、そのあまりの行動力の高さにみんな度肝を抜かれてしまっていた。また、ベトナム人学生たち

は、素直で、真面目である印象を持ち、アンケートを取るためお邪魔させていただいた教室にいたベトナム人学生たちは狭く暑い中にもかかわらず、全員が授業に集中している様子が印象的であった。クーラーが効いた涼しい部屋で行われている講義で眠っている日本人とは大違いだ。同じ班のベトナム人学生は活動の合間に、スコールが降る中、わざわざ伝統的なお菓子を買に行ってくれたりもした。言語はうまく通じないながらも、本当に優しさにあふれていて、人間として見習っていかなければならないなと思えた。

2日に及ぶ交流は苦いこともあつたが、私にとって薬ともなりえる貴重な時間であつたことは間違いない。英語能力についての課題を自覚するとともに、日本では得られない大きな視野を得ることができた。当初に掲げていた目的はこのベトナム人学生とのPBL活動を通じて達成できたように思う。そして、新たな課題として積極的な姿勢を身に着け、今回のような悔しい経験を繰り返さないよう、能動的に活動することを心がけようと思う。素晴らしい体験ができて本当によかつた。

#### 4. おわりに

この経験は、私のこれからの人生にとって分岐点になりえるものだと感じている。今まで描いてきた未来と、全く違う世界、今まで見えていなかった道がずっと現れたように感じた。しかし同時に、この経験は分岐点にすぎないのであつて、今後自分で足を踏み出さなければ何も変わらないものだとも感じた。その一歩を踏み出す勇気を、積極性というものの必要性を、私がこのプログラムを通して学ぶことができた。これから先、人生を歩む中でまた、同じように困難なことがらに直面するかもしれない。そのとき、私は迷いなく一歩を踏み出していけるような、そんな人間になりたい、いや、絶対になるのだと心に決めて、これから先は頑張っていきたい。